

「世界の宝石 瀬戸内海へ ～出逢い、つながる90年～」

—瀬戸内海国立公園指定90周年を契機とした香川県の取組み—

香川県政策部政策課

1. はじめに

いくつもの島が浮かぶ穏やかな海、陽光にきらめく水面、朝焼けの静かな波、郷愁を誘う夕焼け。「世界の宝石」と称される瀬戸内海は、昭和9年3月16日、日本で最初の国立公園に指定され、今年で90周年を迎えました。

香川県では、この節目に、瀬戸内海の素晴らしさと大切さを見つめ直すとともに、その魅力を県内外に広める取組みとして、「世界の宝石 瀬戸内海へ ～出逢い、つながる90年～」をテーマとして、県内市町や岡山県と連携し、さまざまな記念イベントを実施しています。今回、この記念イベントについて、いくつかご紹介します。



2. 記念イベント

2. 1 キックオフイベント「屋島・鷺羽山ウオーク」

90年前に初めて国立公園に指定された備讃瀬戸の代表的な展望地である屋島・鷺羽山において、指定日である3月16日に、環境省、岡山県、高松市等と連携して、瀬戸内海国立公園指定90周年記念事業キックオフイベントを開催し、「屋島・鷺羽山ウオーク」では、屋島では206名、鷺羽山では185名、計391名が参加しました。

屋島山上の集いの広場（県木園）で行われたキックオフセレモニーでは、池田知事が、「瀬戸内海は私たちやみなさんの財産。次の世代につなげていくスタートの1日になれば」と挨拶をしました。続いて、高松市立屋島中学校の生徒による合唱や、元株式会社四国新聞編集局長で瀬戸内海や屋島に深い造詣を持つ泉川誉夫さんによる「瀬戸内海へのまなざし」と題した講話、香川県立高松北高等学校の生徒による宣誓が行われました。宣誓では、香川県立高松北高等学校の生徒代表3人が「瀬戸内海の自然環境を保全し、その大切さを未来へ引き継いでいくことを誓います」と力強く宣誓し、瀬戸内海の美しさを守り継いでいく決意を新たにしました。宣誓の後には、ラジオ体操応援ポケモンのルカリオ、うどん県PR団のヤドンをゲストに迎え、参加者全員でラジオ体操を行いました。

その後の屋島ウオークでは、4つのコースに分かれて屋島を散策しました。参加者は、屋島南嶺の「獅子の霊巖」や北嶺の「遊鶴亭」などを巡り、「世界の宝石」とも称される瀬戸内海の自然や景観を楽しみました。



写真1「屋島・鷺羽山ウオーク」の様

2. 2 香川×岡山つながる食の大博覧会

6月22日(土)、23日(日)の2日間、サンメッセ香川において、「香川×岡山つながる食の大博覧会」を開催しました。

岡山県と連携して「食」をテーマに開催する初のイベントで、瀬戸内の気候風土に育まれた両県の食について、改めて瀬戸内海の恩恵を考える契機にするとともに、県産食材の認知度向上を図り、販売拡大につなげるため、両県の食に関する県産品を一堂に集めて魅力発信と販売を実施したもので、約3万3千人が来場しました。



写真2「香川×岡山つながる食の大博覧会」会場の模様

オープニングセレモニーでは、池田知事と伊原木岡山県知事が登壇して開会宣言を行い、香川から農業経営高等学校の「拓心太鼓」、岡山から市民参加型お祭り「うらじゃ」が披露されました。

会場では、自治体や食の団体など香川県から39ブース、岡山県から29ブースの計68ブースが出展し、両県の水産加工品を始め、農畜産物、それらを使った料理やスイーツなど、来場者に対面で県産品の魅力を伝えながら販売しました。また、両県の食材を使ったコラボレーションメニュー（讃岐うどん×岡山県産海苔の加工品、津山ホルモンうどん×香川県産のいりこぶし）も誕生し、数量限定で販売され両日とも大盛況でした。

また、会場中央には、瀬戸内海国立公園指定90周年のPRブースを設置し、香川県と岡山県をつなぐ橋をイメージしたアーチを掲げ、瀬戸内海の歩みパネルやフォトパネルの展示を行いました。その他、料理愛好家の平野レミさんによる両県の食材を使ったクッキングショーや、県産品〇×クイズ、きびだんごや和三盆のお菓子作りのワークショップ、「おさかなシャトル」による地魚の展示など、両県の県産品の魅力を大人から子どもまで楽しみながら体感いただきました。

10月19日(土)、20日(日)には、引き続き岡山県と連携して、同イベントを岡山県吉備中央町のきびプラザ周辺において開催することを予定しています。

2. 3 90周年記念シンポジウム「世界の宝石を守り、つなぐ～持続可能な未来への船出～」

7月15日(月・祝)にかがわ国際会議場において、瀬戸内海国立公園指定90周年記念シンポジウムを開催しました。県内外から約300名の参加者が集まり、瀬戸内海の魅力や未来について深く考える機会となりました。

シンポジウムでは、さぬき市立長尾小学校児童とさぬき市職員が、瀬戸内海の国立公園化に尽力したさぬき市出身の政治家、小西和氏の功績を紹介しました。続いて、香川大学創造工学部学部長の末永慶寛教授が「藻場造成と豊かな瀬戸内海への道」をテーマに基調講演を行い、藻場の重要性やその保全・再生のための取り組みについて詳しく解説しました。

その後は、芸能界随一の動物好きとして知られ、海洋生物にも深い造詣を持つ、お笑いコンビ・ココリコの田中直樹さんと池田知事が登壇し、「瀬戸内海にひとはなぜ魅了されるのか」をテーマにトークセッションが行われました。田中さんは、「瀬戸内海は穏やかで自然も豊かなうえ、暮らしている人も温かい印象があります」と述べ、この地域の魅力について語りました。

最後に行われたパネルディスカッションでは、末永教授のコーディネートのもと、田中直樹さん、池田知事に加え、瀬戸内国際芸術祭の運営等に携わる瀬戸内こえびネットワークの事務局長や、環境問題に取り組む学生プロジェクトの代表を務める香川大学の学生、海ごみ問題解決に向けて海ごみ回収や啓発活動に取り組む岡山県の山陽学園高校の生徒がパネリストとして登壇しました。パネリストたちは、「瀬戸内海の未来のために、今私たちがすべきこと」をテーマに、海ごみ問題への取り組みや思い、今後の課題について語るとともに、魅力ある瀬戸内海の活用法について、活発な議論を交わしました。



写真3「90周年記念シンポジウム」の様相

また、シンポジウムの関連イベントとして、シンボルタワー1階では「瀬戸内×アートイベント」が開催されました。瀬戸内海国立公園指定90周年を記念したフォトコンテストの入賞作品展や、かがわ海ごみリーダーによる海ごみを使ったワークショップ、アーティストによる瀬戸内海や海ごみをテーマとしたアートショーなどが行われ、参加者たちが瀬戸内海や環境問題への関心を高めるきっかけとなりました。



写真4「海ごみワークショップ」の様相

2. 4 今後の主な記念イベント

10月19日(土)には、「大編成オーケストラと映像美で魅せる 瀬戸フィルハーモニー交響楽団「SETOUCHI」コンサート」を予定しています。四国初のプロオーケストラである瀬戸フィルハーモニー交響楽団が、ラヴェル作曲の名曲「ボレロ」を披露して瀬戸内海国立公園指定90周年を祝います。

瀬戸内の風景やイベント、人々の何気ない瞬間を写し取った(株)アミューズ製作のドキュメンタリー映画「SETOUCHI THE MOVIE」の上映に合わせて、ドビュッシー作曲の交響詩「海」をはじめとした名曲の数々をお届けするとともに、ほかにも香川県出身のピアニスト宮崎朋菜による幻想曲「瀬戸内ファンタジー」の演奏も予定しています。

是非、音楽と映像で瀬戸内の魅力を存分に体験してください。



写真5「SETOUCHI THE MOVIE」@アミューズ



写真6「瀬戸フィルハーモニー交響楽団」

- ・日時:10月19日(土曜日) 午後2時開演(午後1時半開場) 午後4時終演予定
- ・会場:レクザムホール(香川県県民ホール)大ホール(高松市玉藻町9-10)
- ・出演:瀬戸フィルハーモニー交響楽団(指揮:松岡 究、ソリスト:宮崎朋菜)

3. その他の取組み

香川県では、国立公園の舞台にもなっている瀬戸内海の保全にも取り組んでいます。

香川の海、瀬戸内海は、かつての水質汚濁については一定の改善が見られるものの、栄養塩類の不足等によるノリの色落ちや、増加傾向にはあるものの依然として少ない藻場、対応が急がれる海ごみ問題など、まだ多くの課題も抱えており、それらの課題を解決し、「世界の宝石」瀬戸内海を、次世代につなげていくために、香川県では、「全県域、県民みんなで」をキャッチフレーズに、「美しい海」「生物が多様な海」「交流と賑わいのある海」の実現を目指して、本県ならではの「里海」づくりに取り組んでいます。ここでは、その中でも柱となる「かがわ里海大学」を紹介します。

里海についての理解を広め、里海づくりをけん引する人材を育成するため、平成28年に香川大学と共同で開校したもので、「大学」という名称ですが、校舎や試験はなく、里海づくりにつながるさまざまなワークショップや体験講座、スキルアップのための講座を年30講座程度開催しているもので、これまでに延べ4,000名を超える方が修了しています。

特に、プロガイドからガイディングやファシリテーション技術、安全管理などを実践的に学ぶ「里海ガイド養成講座」からは、新しい世代の優れた人材が多数生まれてきており、令和5年度には、半数以上の講座で修了生が講師を務めるなど、かがわ里海大学の大きな目的の一つである人材育成の成果が、かがわの里海づくりを広めていくことにつながっている好循環は、かがわ里海大学の大きな特徴となっています。

さらに、「海ごみリーダー養成講座」を修了された方には、海岸漂着物処理推進法に基づく「海岸漂着物対策活動推進員」（愛称：かがわ海ごみリーダー）を委嘱して、かがわ里海大学の海ごみ講座の講師の他にも、県内各地での海岸清掃イベントの開催や、学校等で開催される海ごみ学習の講師など、海ごみの発生抑制の意識啓発に活躍いただいています。

その他、子どもも含めた一般向けのワークショップや体験ツアーも開催しており、毎年多くの方にご参加をいただいている磯の生き物やウミホタルなどの観察講座、離島でのアクティビティを盛り込んで行う里海体験ツアーなど、海に親しむフィールド体験型講座を中心に、目指す里海の姿に向けた多様な視点から、さまざまな講座を開催しています。

来年の大阪・関西万博では、地球的規模の課題について解決策を探る「地球の未来と生物多様性ウィーク」の期間に、「かがわの里海づくり」も出展を予定しています。SATOUMIを香川から世界へ、引き続き、美しく豊かな海を目指した取組みを進めていきます。

4. まとめ

来年は、瀬戸内国際芸術2025に加え、大阪・関西万博が開催されることから、瀬戸内海への関心や注目が一層高まるものと考えています。この一連の流れを大きなチャンスと捉え、積極的な取組みを行い、本県の活性化につなげてまいります。

この機会に、瀬戸内海の美しい景観をめぐってはいかがでしょうか。香川県でお待ちしております。